

関連項目：教育活動プラン①

一人ひとりの個性や技能を発揮する場づくり

目的

本校の児童には規範意識がやや低い傾向が見られる。そこで、特に「あいさつ」「ろうかの歩き方」「そうじ」の指導を重点に、生徒指導と児童会の機能を生かし、あいさつ運動や清掃活動などのボランティア活動（古っ子コアラ隊活動）を推進する中で、規範意識の向上をめざすことにした。

内容

● 「古っ子コアラ隊」活動

本校のシンボルであるユカリの木にちなんで、「〇〇コアラ隊」と名付けてボランティア活動に取り組んでいる。それらの活動に進んで参加し、学校のため、みんなのため、自分のために力を発揮する中で、児童がいきいきと輝くよりよい学校になるとともに、誰もが認める学校自慢になればと思っている。

① あいさつコアラ隊

児童会委員が全校生に呼びかけてボランティアを募集し、毎朝北門であいさつ運動を行っている。友だちと声を掛け合い、常時30～50人が自主的に参加している。本年度は、月に10回以上参加した児童を「あいさつコアラ隊」に任命し、コアラバッジを渡している。現在、71人の「あいさつコアラ隊」がいる。

毎日昼の放送で、学級ごとに参加した人数を知らせたり、特にお手本となるような児童は「あいさつ名人」として名前を紹介したりしている。また、あいさつクラスマッチも実施し、意欲化を図っている。



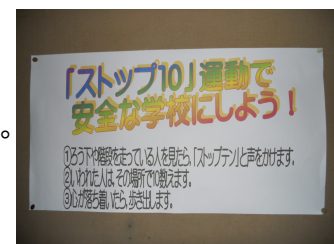
② ピカピカコアラ隊

ピカピカスクール委員会からの呼びかけにより、週2回（月・水）のボランティア清掃が始まった。業間の20分の休み時間を活用して、落ち葉を拾ったり清掃をしたりしている。落ち葉の多い季節には、50人ほどの児童がユカリの木があるふれあい広場に集まり、競争するかのよう落ち葉拾いをしている姿が見られた。寒い日が続いている現在でも「ピカピカコアラ隊」は活動している。活動に参加した児童は昼の放送で紹介するようにしている。



● 「ストップ10（テン）」運動

「ストップ10」運動は、落ち着いてろうか歩行ができるようにと、児童会委員からの提案で始まった。「ストップ10」とは、ろうかを走っている児童がいるとき、それを見た児童が「ストップ10。」と言うと、走っていた児童はその場で10を数え、心を落ち着かせてから歩くというものである。教職員が注意するのには限界があり、児童同士が注意し合う方がろうかを走らないようにしようという気運が高まると考え取り組んだ。全校生に提案した当初は、あちらこちらで「ストップ10」という声が聞こえ、児童に対して意識化を図ることはできていた。



成果

規範意識を向上させるため、特に重点的に行った「あいさつ」「ろうかの歩き方」「そうじ」の指導については、生活アンケートにおいて明るく元気なあいさつができたと答えた児童が78%（昨年度69%）、ろうかを正しく歩くことができたと答えた児童が54%（昨年度44%）、きちんとそうじができたと答えた児童が92%（昨年度89%）とどの項目も向上している。

指導にあたっては、児童に意識させること、そして児童の変容を評価すること、それを児童にかえすこと（意識化→可視化→称賛）が大切であり、依然として課題である「あいさつ」「ろうかの歩き方」については、今後も生徒指導と児童会の機能を生かし、教職員の評価を大切にしながら児童自らが生活を見つめ、改善しようとする方策を考えていきたい。

